

麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 獣医学科

職階 准教授

氏名 青木卓磨

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・・ 毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・ 3年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

学部ならびに大学院教育を担当しており、主に小動物臨床で、一般外科や手術に関する実習と、循環器および呼吸器疾患を担当している。また、前述の臓器において産業動物も教育している。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
獣医外科学特論	獣医	－	1	5
産業動物臨床実習	獣医	必	5	140
獣医内科学	獣医	必	4	140
獣医外科学	獣医	必	4	140
獣医外科学実習	獣医	必	5	140
獣医放射線学実習	獣医	必	5	140
小動物獣医総合臨床Ⅱ	獣医	必	4	140
小動物臨床実習	獣医	必	5	140
基礎・小動物獣医総合臨床Ⅱ	獣医	必	4	140
総合獣医学	獣医	必	6	140
獣医学特論Ⅰ	獣医	必	6	140
卒業論文	獣医	必	6	140
小動物病院実習	獣医	選択	6	30

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

学生には教科書やエビデンスに則った教育を実施している。一方で、小動物臨床には十分なエビデンスが揃わない事例も多く、未解決な点も多いが、その場合は自身の経験談、他施設ならびに専門家の報告を紹介する、あるいは現時点で報告から考えられる最良の解決法と一緒に考えられるようにしている。臨床に関する知見は膨大であり、また毎年更新されるため、2～3年間の履修期間ですべてを体得することは不可能である。臨床の実例においても教科書通りにいかないことは多々ある。そのことから、問題にぶつかった場合には自ら調べ、対応する能力が必要となる。私は、学生には自分で調べると言った習慣を持ってほしいと感じており、昨今の一方的に情報を与えられるだけ、受けるだけの姿勢には疑問を持っている。そのため、問題解決のためにどのように調べるべきか、また論理的思考法を教え、問題があった場合にみずから積極的に調べ、対応出来る学生を育てたいと考えている。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

教科書を示すだけではなく、学生には実例をみてもらうことで、よりリアルな診療風景を思い浮かべてもらい、自分で疑問を持つチャンスを与えている。具体的には、実例をあげ、臨床徴候から推測される鑑別診断、臨床徴候や画像診断を含めた動画や写真などの提供、心雑音や肺の雑音など音源の提供を行い、手術であれば手術動画を短く編集して授業内で示している。また、獣医領域ではクライアントごとに治療法が異なることもあるため、クライアントの要望に沿った治療選択肢を複数示すことで、現場をリアルに想像してもらうよう指導している。実習中には、学生に積極的に質問し、回答させることで自ら考える能力を養わせている。麻布大学においても視覚優位の学生が増えているため、前述の通り、授業の資料には必ず動画を交えているが、その際には音などを含めることで、より現場が立体的に想像できるように試みている。教科書やガイドラインがある疾患に関しては、それらを自分で確認するよう指導している。ガイドラインは膨大な文書量からなるため、授業では贅肉をそぎ落とし、エッセンスだけを伝えざるをえない。しかしながら、本来はガイドラインを隅から隅まで読み、かつ自分が疑問に思う点があれば、参考文献から孫引きをしてその論文の精度も確認すべきである。そのことから、授業を聞くのみではなく、ガイドラインを最低でも一読するように伝えている。

(1) アクティブ・ラーニングについての取組

有

V5小動物臨床実習において、付属動物病院での参加型臨床実習に加え、学生がグループでもっとも興味を持った1症例を選択し、電子カルテと画像診断ビューワーから発表資料を作成し、担当教員に対して発表している。これにより学生は自分でデータを集め、参考文献を読み、わかりやすく発表する過程を学ぶことができる。

(2) ICTの教育活用

有

V5小動物臨床実習において、「診療日誌」ファイルをタブレットやPCで付属動物病院に持ち込み、実際の症例を見て情報を書き込み、さらに参考文献などを付してクラウド上に提出し、評価している。

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

B

クラウド上に動画やマニュアルを事前に配布し、授業や実習の参加前に学習させることで学習効率と意欲を高めようとしている。

（２）学生の理解度の把握

A

学生には参加型臨床実習の際に質問し、理解度を確認している。さらに診療終了後には一日の症例をディスカッションする「ラウンド」を設けている。また、CBT、診療日誌、症例発表を行い、評価している。

（３）学生の自学自習を促す工夫

B

事前に學理やクラウドに動画や資料をアップロードし、事前学習するようにしている。また、症例発表でスライドを作成させることで、自分で調べる力をつけさせている。

（４）学生とのコミュニケーション

A

対面ならびにメールでの随時対応している。

（５）双方向授業への工夫

B

参加型臨床実習や症例発表などで質疑応答を行っている。

（６）国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）

A

総合獣医学では過去問から頻出問題や問題の具体例を示し、授業を行っている。

5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

（１）授業評価アンケート結果の授業への反映

具体的な指摘はなかったが、学生の読解力に合わせた文章に修正する予定である。

（２）（１）の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

文章のみでは理解できない学生も増えてきているため、図や例題などで対応する必要がある。

（３）（２）を踏まえた次年度の取組

より分かりやすく、図や具体例などを明示して記載するようにする。

6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

（１）現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

学生自身に1症例を詳細に調査させる症例発表は、担当教員との意見交換を含め好評であり、成績向上につながっていると思われる。

（２）（１）の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

具体的にはないが、小動物臨床においてどのような分野に自分が適しているかを判断でき、研修医として当院に入学することがあった。

7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

診療に加え、業務過多で時間がないためリアルタイムでの参加は難しいが、オンデマンド配信を視聴し、アンケートに回答するようにしている。

8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

人員不足と業務過多で現在では十分には取り組めないが、将来的に人員が補充された場合はより学生へ配布する資料をより分かりやすくしたい。

9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

学生アンケート等